

東アジア地域大学入試研究集会

研究開発部情報処理研究部門 清水 留三郎

研究会の概要

中国の国家教育委員会に所属する教育考試管理中心が、東洋の文化圏にある東アジアの諸国は試験に関して共通の意識を持つであろうから、集まって討論することは有益であろうという趣旨で関係諸国に呼び掛け、1991年9月中旬に北京の清華大学内にある干訓楼(幹部訓練施設の意味と聞いた)という施設で、大学入試に関する研究集会を開催した。

中国に、日本、韓国、インド、シンガポールを加えた5か国から参加があった。

日本からは、飯島宗一名古屋大学前学長、中島直忠大学入試センター前教授と筆者が参加した。飯島前学長は、日本の大学入試制度改革の検討経過と改善策の目的等について、中島前教授は、諸国の大学入試制度の特徴について、筆者は、大学入試センター試験と国立大学の入学者選抜方式の現況について報告した。

インドの大学講師は、出題における

客観形式と記述解答形式の諸法の比較と、得点から段階評価への変換方式の事例を報告した。また、シンガポール文部省の試験・評価担当官は、英語の試験において、受験者の家庭によって日常使用言語が中国語・英語・マレー語・タミール語と多様なことが、適正な評価を困難にしている現状を報告した。

中国と韓国の発表者は、大学入試制度の近況と、その改善の進行状況を報告した。以下にこの最後の報告を紹介する。

中国の大学入試の近況

中国の大学入学者の選抜は、「全国普通高等学校招生統一考試」と称する統一試験の成績のみに基づいて行われる。

この統一試験の試験問題及び採点基準の作成は、中央に1987年に設置された教育考試管理中心が担当して、大学教授に委嘱した出題委員が行う。問題冊子の印刷、7月7～9日の試験の実

施、答案の採点は、地方の各省等が担当して行う。

受験科目は志望学部によって2組に分かれる。理工農医等の理系各学部志願者は、政治、中国語、数学、物理、化学、生物、外国語の7科目、人文・社会科学の文系各学部志願者には政治、中国語、数学、歴史、地理、外国語の6科目となっている。

出題の形式は、各科目共に多肢選択形式と記述解答形式を併用している。解答形式別の配点は1991年の出題では次のようになっている。

中国語は、多肢選択54点、短文16点、長文50点の合計120点。

数学は、文系と理系で内容は異なるが、配点は共通で、多肢選択45点、短答15点、長答60点の合計120点。

英語は、多肢選択85%、作文15%の合計70点。

物理は、多肢選択50点、短答24点、長答26点の合計100点。化学は、多肢選択55点、記述解答45点の合計100点。生物は、多肢選択35点、記述解答35点の合計70点。

歴史は、多肢選択50点、単語解答10点、短文解答10点、長文解答30点の合計100点。地理は、多肢選択50点、短文解答50点の合計100点。

約280万人の受験者の中から合格する者は約60万人に過ぎず、競争は極めて激しい。このことは次の2つの問題

を生む。1つは、各高等学校が合格率を上げようとして、そこにおける教育が試験科目だけに偏ることであり、他は多数の不合格者に対して学習達成度の評価が適正に成されないことである。

これらの問題を解決する改善策として、各省等による高等学校卒業資格試験の導入が奨励されている。

この卒業資格試験の受験科目は、統一試験の9つの試験科目全部である。これらの科目は筆記試験によって得点で評価される。理科の3科目の実験についても合否が評価される。さらに、体育実技の合否も高等学校によって評価される。

1985年に上海市が最初に導入し、1988年に浙江省、1989年に海南、雲南、湖南の3省、1990年に河南、貴州、湖北の3省が続いた。

卒業資格試験を実施している所では、その合格が統一試験の受験資格になるとともに、統一試験の受験科目を減らし、出題量を増やして、狭く深く学力を見ることが図られている。

また、現行の文理2系列に対して、当面次の4系列への多様化を目指している。

第1系列：政治、中国語、歴史、外国語

第2系列：政治、中国語、物理、外国語

第3系列：数学、化学、生物、外国語

第4系列：数学、中国語、地理、外国語

この多様化についても、各科目の受

験者層に変動を引き起こし、出題の水準に影響する懸念が既に予見されている。

韓国の大学入試の近況

1988 年以降韓国の大学入学者の選抜は、統一学力試験、高校調査書（配点 30% 以上）、各大学による面接の 3 つの成績に基づいて行われている。

大学入学志願者は、統一学力試験の受験に先立って、各大学に出願する。これは、「入れる大学より入りたい大学」に出願させることを目指したものである。

統一学力試験の試験問題の作成および答案の採点は、中央教育研修院が担当して、大学教授に委嘱した出題委員が行う。試験の実施は、各大学が担当して行う。

出題の形式は、各試験科目共に多肢選択形式と記述解答形式（30% 程度）を併用している。

受験科目は志望学部によって次の 3 組に分かれる。

人文・社会科学系：

（指定）

韓国語 I・II、数学 I、英語、国史、倫理の 5 科目

（選択）

（1）社会、地理、世界史の中の 2 科目

（2）物理 I、化学 I、生物 I、地学の中の 1 科目

（3）外国語、工業、農業、商業、水産、家庭の中の 1 科目

自然科学系：

（指定）

韓国語 I・II、数学 I・II、英語、国史、倫理の 5 科目

（選択）

（1）社会、地理、世界史の中の 2 科目

（2）物理 I・II、化学 I・II、生物 I・II、地学の中の 1 科目

（3）外国語、工業、農業、商業、水産、家庭の中の 1 科目

芸術・体育系：

（指定）

韓国語 I、数学 I・II、英語、国史、倫理の 5 科目

（選択）

（1）社会、地理、世界史の中の 1 科目

（2）物理 I、化学 I、生物 I、地学の中の 1 科目

（3）外国語、工業、農業、商業、水産、家庭の中の 1 科目

（4）音楽、美術、体育の中の 1 科目

各科目に標準的な配点が定まっているが、各大学・学部はその特性に応じ

て傾斜配点を行うことが許容されている。

現行の制度の問題点は、上級中学校が合格率を上げようとして、そこにおける教育が試験科目だけに偏ることである。

次のような改善策が計画されている。

（1）上級中学校における教育の正常化とより適格な入学者の選抜を目指して、統一試験を上級中学校における学習の達成度ばかりでなく、大学教育への適性もみる大学修学能力試験と位置づけて、次の 3 種に整理する。

①言語能力

（国語、倫理、歴史、地理、音楽、美術、

体育）

②数理能力

（数学、物理、化学、生物、地学）

③外国語能力

（2）入学者の選抜における各大学の自律性を高めるために、次の 3 種のよう

に多様な資料の利用法を許容する。

① 上級中学校の申告書のみ

② ①+大学修学能力試験

③ ①+②+大学個別試験

謝辞

この研究集会には文部省の国際研究集会派遣研究員として参加した。お世話になりましたの方々にお礼申し上げます。